2010 年 7 月～

人間歯科学研究会報

人間歯科学研究会
〒567-0883　茨木市大手町 7-26
FAX　０７２－６２６－６５１９
E-mail yoshihara@gold.ocn.ne.jp

“O157”日本列島をかけめぐる！

学校歯科検診による小児の歯科治療がほぼ収束に近い。一方で O157（腸管出血性大腸菌）の感染者が増加し始めた。

6 ～９月前半までは食中毒増加時期だといわれているが、乳幼児や高齢者は感染しやすいので要注意である。歯科医院での感染には充分に注意しなければならない。

治療前の口腔清掃に歯ブラシを使う歯科医院では、個人歯ブラシを水流で充分に水洗いするように心がけ、手指消毒は外科消毒を基本とする。特にタオルは細菌の温床だといわれている。ウィルスではないので空中浮遊はないが、器具・薬ビンなどはティッシュペーパーでも耐菌効果があるとされている。

「噛む」が歯科医師会のキャッチフレーズ

歯科医の治療内容は、基本的に“むし歯”と“歯周病”であるが、患者の自発的な予防（Home Care , Self Treatment）が大切なことはいうまでもない。

歯科医師、歯科衛生士、歯科助手、保健婦、看護士、介護士などが一体となって、日常生活習慣についての指導は欠かせない。ただし生活習慣が乱れたり、自発的予防の認識が薄いために生じた疾患については、完全な治療技術を歯科医師が持っていることが前提である。

うわべだけのキャッチフレーズではむなしい・・・。

「噛む」ための指導についても、一部のあるいは一時期の状況だけではなくあらゆる条件に対して分析され、マニフェストともいわれるプログラムができていることが望ましい。

私たちは長年にわたってそれらの研究を重ねた結果、イギリスの福祉制度に盛り込まれた「揺りかごから墓場まで」（赤ちゃんから高齢者まで）のプログラムができあがっている。これには、育児を実践中のお母様たちから車椅子にたよっている総義歯の高齢者まで多くの方たちのご協力を頂いた。

「噛む」ための指導は、専門家たちによって「咬合指導」と名付けられて、口腔清掃から噛み方、咬み合わせそして咬合調整までが含まれている。食事の仕方や食事の内容についてはいうまでもない。

各年齢や各種の症例に対して、必要に応じて噛むためのトレーナーを使用すると、噛む能力が特殊な装置を用いずに向上するという結果を約６００例について証明した。“Chewing Master ＣＡＭ ＣＡＭ”がそれである。

ＣＡＭ ＣＡＭ Academyについて

ＣＡＭ ＣＡＭ Academy は、歯科医師やスタッフに対してのレクチャーとワークショップが一組になった研修システムである。２日間にわたって咀嚼咬合理論を実践によって学ぶことができる。

●－‥－‥－‥